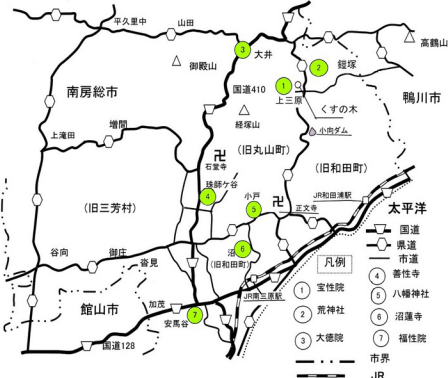


後藤義光の生涯と主な彫刻

年号(西暦)	年齢	事歴	
文化 12(1815)	1	朝夷郡北朝夷村(南房総市千倉町北朝夷)上人塚に生まれる。本名、利兵衛 幼名、若松。父は大工職の山口弥兵衛	
文政 11(1828)	14	大黒天像、寶頭盧(びんずる)尊者像を彫る(南房総市千倉町川合 愛宕神社蔵)	(1 千倉・白浜編)
天保 8(1837)	23	江戸京橋の彫刻師後藤三次郎恒俊の弟子となる	
天保 13(1842)	28	横須賀市叶神社(清賀明神社)の再建にあたり、拝殿の格・栂天井・欄間、木鼻の獅子などを彫る(銘「後藤利兵衛光定」) →義光の出世作となり名声高まる	
天保 15(1844)	30	南房総市千倉町西養寺の向拝彫刻を彫る	(1 千倉・白浜編)
弘化 3(1846)	32	鎌倉市八雲神社の向拝彫刻を彫る(銘「安房国住後藤利兵衛義光」) 42歳頃まで鎌倉等で活躍したと伝えられている	
安政 3(1856)	42	このころ、千倉に帰郷する	
安政 6(1859)	45	南房総市千倉町円蔵院に欄間彫刻を制作する(銘「後藤利兵衛橋義光」)	(1 千倉・白浜編)
文久 3(1863)	49	館山市鶴谷八幡宮向拝の栂天井(「百應の竜」市指定文化財)や木鼻などを制作する	(4 館山編)
元治元(1864)	50	館南町妙本寺の向拝彫刻を制作する	(3 鴨川・館南・富山編)
慶応 4(1868)	54	鴨川市龍性院の向拝彫刻を制作する	(3 鴨川・館南・富山編)
明治 5(1872)	58	清澄寺(鴨川市)住職金剛有性が安房国 108ヶ寺の地藏尊御詠歌奉願にあたりその扁額を制作する 南房総市大井大徳院の石造地藏菩薩坐像を制作する	(2 和田・丸山編)
明治 9(1876)	62	南房総市丸山地区東光山福性院不動堂の向拝の龍の彫刻を制作する	(2 和田・丸山編)
明治 17(1884)	70	南房総市千倉町住吉寺観音堂の向拝彫刻を制作する 南房総市千倉町円蔵院の弘法大師遠忌石塔や鴨川市白滝不動の向拝龍を制作する	(1 千倉・白浜編)
明治 20(1886)	73	南房総市千倉町白間津日枝神社の向拝彫刻を制作する	(1 千倉・白浜編)
明治 24(1891)	77	南房総市 富山地区高崎浜下屋台の彫刻を制作する	
明治 25(1892)	78	館山市小網寺の向拝彫刻を制作する	(4 館山編)
明治 29(1896)	82	この頃館山市上真倉(青柳)に居住する	
明治 31(1898)	84	南房総市千倉町福寿山正福寺の宝篋印塔の彫刻を制作する 館山市下真倉日枝神社神輿の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治 32(1899)	85	館山市上真倉神明神社神輿の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治 35(1902)	88	館山市船形地区大塚の山車の彫刻を制作する	(4 館山編)
明治 35(1902)	88	南房総市富山地区勝善寺の向拝彫刻を制作する 館山市長須賀末福寺に門人・友人が義光の米寿を祝って碑を建立する	(3 鴨川・館南・富山編)
		4月22日没 ※以上の表は概年数で記していますが、年代をあわせため実年齢に彫られている年齢(本文に記載)と異なることがあります	(4 館山編)



大徳院 石造地藏菩薩坐像
(南房総市大井)
南房総市指定文化財